

3. 11 防災フォーラム2017

— 東日本大震災からの創造的復興と大規模風水害減災に向けて —

プログラム

14:00 開会

挨拶

八戸工業大学 学長 長谷川 明
八戸市長 小林 眞

14:10 講演

「八戸市の津波防災について」

八戸市 市民防災部 防災危機管理課 副参事 高村 勝典 氏
八戸市 市民防災部 防災危機管理課 主事 漆戸 啓二 氏

東日本大震災の教訓として、防波堤など建築物のハード整備による防災対策には一定の限界があることが判明しました。今後想定される最大クラスの津波災害リスクに対し、人々を避難させることを重視しながら、ハード、ソフト両面から総合的に取り組んできた八戸市の防災対策を紹介します。

(14:46 黙禱)

「馬淵川の水害と対策について」

国土交通省 東北地方整備局 青森河川国道事務所 副所長 平山 孝信 氏

馬淵川の過去の被害状況と現状の治水対策の取組状況及び課題を報告し、さらに、昨年の関東・東北豪雨時の災害対応を踏まえて、馬淵川における堤防の決壊や越水等に伴う大規模な浸水被害に備え、国、県や沿川の自治体等が連携して減災のために取り組んでいる共有の目標とハード・ソフト対策について講演を行います。

(15:10~15:25 休憩)

15:25 ショートレクチャー

「津波エネルギー低減と粘り強さを考慮した防潮堤の開発」

八戸工業大学 土木建築工学科 教授 金子 賢治 氏

防潮堤は、ハード面では津波防災において最も重要な構造物です。2011年東北地方太平洋沖地震で発生した津波によって、旧来の技術により造られた多くの防潮堤が崩壊し、背後に大きな被害をもたらしました。震災以降、粘り強い防潮堤の研究開発が活発に勧められています。八戸工業大学においても粘り強さと共に背後の陸地への被害を最小化することを念頭において、新しい防潮堤盛土の研究を進めています。本講演では、「津波エネルギー低減」「粘り強さ」と言ったキーワードに基づいて、これらの研究成果について報告します。

「災害の記憶と継承 -若者が繋ぐ過去と未来-」

八戸工業大学 基礎教育研究センター 准教授 今出 敏彦 氏

自らの阪神淡路大震災被災経験を基に、東日本大震災からの復興に貢献したい。被災地調査から、危機的状況下で生き残った者の経験知の継承が重要であると感じています。しかし、それは極めて稀な経験であり、経験者が無くなれば、誰も伝える事が出来ません。この難題解決の為に、本研究では、若者の主体的かつ能動的な学修能力を育成するアクティブラーニング実践とその評価手法を用いて、震災の記憶を継承し、防災教育の一層の充実を図ります。

「3.11 震災アーカイブの普及・推進について -ADACの活動紹介-」

あおもりデジタルアーカイブ・コンソーシアム (ADAC)

インフォコム株式会社 サービスビジネス事業本部 東北担当部長 内田 智尚 氏

東日本大震災後に、国の「震災アーカイブ構築の実証実験事業」における被災地側推進組織として八戸工業大学を中心とした青森県協議会を発足させました。後にADAC(あおもりデジタルアーカイブ・コンソーシアム)という産学協同組織へと拡張し、青森県並びに八戸広域におけるデジタルアーカイブの普及・推進活動を進めてきました。県下被災4市町と市民の協力によって完成した『青森震災アーカイブ』の構築過程と、ADACが八戸市に寄贈した過去災害の記録のデジタル化データの紹介、また八戸三社大祭をはじめとする現在のADACの活動を紹介します。

16:10 閉会